

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 カリキュラム論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 長谷川 智子	実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 20時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 幼稚園、保育所・認定こども園がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 幼稚園教育要領等の指針や保育所保育指針を基準として各園において編成される・全体的な計画・教育課程等について、その意義や編成の方法を理解できる。 ・ 各園の実情に合わせながら創意工夫し、園と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子どもの発達の連続性及び保育者間の共通認識とは 2. 地域や家庭との連携、小・中学校との連携とは 3. 保育における計画について 4. 幼児期の遊びと学びについて 5. 教育課程の実施と指導計画の作成について 6. 指導計画作成の実際について 7. 保育における評価について 8. 教育課程、保育課程の課題と展望について			
[使用テキスト・参考文献]		教育課程論(光生館)	
[単位認定の方法及び基準]		・レポート評価による。	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 リズム遊び		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 大塚 三聖	実務経験	県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・創作ダンスを考え、動きに変化を付けて表現や変化のあるひとまとまりの表現ができるようになる。 ・仲間の表現を認め合いながら、意見を出し合い、協調して一つの作品を創り上げることができるようになる。 [授業全体の内容の概要] ・学生主体による踊る楽しさや喜びを体験し、表現することの可能性を発見すると共に「踊る」「創る」「観る」という活動を通して、指導・実践能力を養う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・創作ダンスを考える発想力を養えるようになる。 ・企画力を養えるようになる。 ・発表会(学園祭)で発表できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 授業の概要(オリテ) 2. 役割・曲決め・衣装決め 3. ビデオ学習 4. ビデオ学習 5. ビデオ学習 6. ビデオ学習 7. デモンストレーション学習 8. デモンストレーション学習 9. デモンストレーション学習 10. デモンストレーション学習 11. デモンストレーション学習 12. デモンストレーション学習 13. リハーサル学習 14. リハーサル学習 15. 発表 (試験) 発表(学園祭)			
[使用テキスト・参考文献]		なし	

[単位認定の方法及び基準]	・以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、ダンスの完成度を評価する。 2. 平常点(15%) 授業への参加状況では発言回数・協調性等を評価する。
----------------------	--

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育原理		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 大塚 三聖	実務経験	県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 12 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 教育 (学) の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で教育について考える力を養う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 教育という言葉の意味を人間の特性、発達、人間形成という観点から捉え、学校教育の歴史や、様々な教育者の思想についてや、我が国の教育政策や学習指導要領の動向についてなども理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 人間の特性、発達、人間形成、教育と遺伝と環境について 2. 教育の歴史と我が国の教育政策について 3. 教育の基本原理について 4. 教育の制度と思想について 5. 子どもの発達段階に応じた教育的諸課題と発達段階ごとの教育的配慮について 6. 家庭や地域社会が子どもの育ちに果たす役割について 7. 新学習指導要領の特徴について 8. 現代社会の教育的課題について			

[使用テキスト・参考文献]	『新しい教育原理』 ミネルヴァ書房 『幼稚園教育要領』 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育実習指導（初等）Ⅰ		授業の種類（ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 長谷川 智子	実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 11回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ ☒ 必修 ・ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] 教育実習のねらいを達成するために必要な態度や知識、技能の習得を目的とする。 [授業全体の内容の概要] 教育実習の基礎知識や心構えを身に付けるために、講義、演習、事例検討を通して学ぶ。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 教育実習の目的、心構えがわかる。 ・ 教育実習における記録や指導案立案の方法がわかる。 ・ 幼児理解、教材研究、指導の方法がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 教育実習の意義 2. 子ども理解と実態の把握 3. 日誌を書く必要性と日誌の書き方 4. 指導案に必要な事項 5. 指導案作成の実践 6. 模擬保育・授業の実施 7. 模擬保育・授業の実施 8. 模擬保育・授業の実施 9. 実習に必要な心構えとマナー 10. 自己理解と実習に向けての課題 11. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック（大学図書出版）	
[単位認定の方法及び基準]		授業態度：50% 試験：50% 総合点：100%	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育実習指導（初等）Ⅱ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 長谷川 智子		実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。
授業の回数 11回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] 教育実習を通して学んだことの省察を通して、教員として必要な自己課題を明確にするとともに、その課題解決のための学修意欲を高めること目的とする。 [授業全体の内容の概要] 教育実習の省察を中心に他者と学びの成果を共有する中で学びを深め、自己課題の改善に向けた取り組みにつなげる。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 教育実習の成果を具体的に他者へ報告することができる。 ・ 教員として必要な自己課題を明確にすることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 自己課題と照らし合わせて振り返る 2. 幼児教育の実際についての学びを振り返る 3. 子どもや教師の姿からの学んだことを振り返る 4. 教育実習でのエピソードをもとに振り返る 5. 実習日誌記入を振り返り課題を整理する 6. 教師の役割・環境を通して行う教育の意義について整理する 7. 教材研究についての学びをディスカッションする 8. 教材研究についての学びをディスカッションする 9. 3歳児～5歳児の年齢別の特徴や指導についての学びをディスカッションする 10. 保育者として専門性をより向上するために必要なことについてディスカッションする 11. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック（大学図書出版）	
[単位認定の方法及び基準]		授業態度：50％ 試験：50％ 総合点：100点	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育心理学		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 海津 庄平	実務経験	精神科の病院に 10 年ほど勤務し、心理士として主に外来・入院患者に対するカウンセリングや心理検査の実施などを行った	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 20 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・子どもの教育に関する心理学的な知識や、教育現場における課題に対する支援について理解できる [授業全体の内容の概要] ・発達や学習、パーソナリティ、そして測定・評価の 4 つの領域に関する知識を身につけ、子どもを理解する力を身につける [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・認知やパーソナリティの発達について理解できる ・学習理論について理解できる ・教育現場の評価方法について理解できる ・心身の障害の支援について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 発達における遺伝と環境の影響について 2. 個人の特性と教授法について 3. 認知の発達について 4. 学習に関する理論と教育場面での活用について 5. パーソナリティの発達と社会化・個性化について 6. 教師・学級と子どもの関係について 7. 教育における評価について 8. 心身の障害の理解と支援のあり方について			
[使用テキスト・参考文献]		授業時に配布する資料を用いる	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による。	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育相談 (カウンセリングを含む)		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 海津 庄平	実務経験	精神科の病院に 10 年ほど勤務し、心理士として主に 外来・入院患者に対するカウンセリングや心理検査 の実施などを行った	
授業の回数 11 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・教育相談とは何かということについて理解できる ・教育相談に関する心理学の基礎知識について理解できる [授業全体の内容の概要] ・教育相談に関する基礎的な知識を身につけ、実際の教育現場で起こり得る課題について 教員の立場からどのように取り組むかについて考えていく [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・教育相談の基本的姿勢や、幼児や児童の生徒理解に関する知識を身につける ・実際の学校現場で生じている課題について、教育相談を通してどのように課題を理解し、 支援につなげていくかについて理解する			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 教育相談とは① 2. 教育相談とは② 3. 心理療法① 4. 心理療法② 5. アセスメントについて 6. こころの問題 7. 発達障害 8. 不適応行動を示す子どもたちへの働きかけ① 9. 不適応行動を示す子どもたちへの働きかけ② 10. 保護者への支援 11. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		授業時に配布する資料を用いる	
[単位認定の方法及び基準]		試験:総合の 50% 授業中のグループワークなど授業への参加状況:総合の 30% 出席状況:総合の 20% 総合点:100 点	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 教育法規		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 大塚 三聖	実務経験	県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 20 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 教育法規に関する基礎的な知識を身につけることを、その知識を用いて学校における法的な諸問題に対応できるようになることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 様々な事例検討などから教育法規についての基礎的な知識を学び身につけていく。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明できる。 ・ 必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 ・ 学校における様々な課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 教育法規を学ぶ意義と、教育法規の体系と構造について 2. 日本国憲法の教育に関する規定、教育基本法、学校教育法などについて 3. 憲法解釈上の義務教育について 4. 公立学校、私立学校における宗教教育や宗教活動についての法の規定 5. 学齢児童又は学齢生徒に対しての懲戒について 6. 授業中の担任の過失による事故の法的責任について 7. 教科書の使用義務と補助教材についての法の規定について 8. 体罰と事実行為の懲戒と法的責任について			

[使用テキスト・参考文献]	山本豊『有権解釈に重きを置いた 教育法規 第三版』 学校図書
[単位認定の方法及び基準]	レポート評価による

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 特別ニーズ教育論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 松本 貴子	実務経験	・私立保育園にて、0～5 歳児の保育、子育て支援事業、実習生指導及び主任業務、また、公立小学校において特別支援教育指導員として従事した。	
授業の回数 11 回	時間数 (単位数) 30 時間 (単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解及び支援の方法についての知識を深める。 [授業全体の内容の概要] 発達障害・母国語・貧困などの様々な教育的ニーズに対応すべく、学校教育が抱える課題について、インクルーシブ教育の視点から考察をする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・インクルーシブ教育の理念とシステム構築について理解する。 ・特別支援教育の理念、制度及び展開について理解する。 ・特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携などの特別支援教育の各形態の現状と課題について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 特別支援教育の歴史とインクルーシブ教育の理念 2. インクルーシブ教育への転換 合理的配慮とユニバーサルデザイン 3. 特別支援教育の教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画 4. 特別支援学級や通級指導教室の教科指導と作業学習と自立活動 5. 発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法 6. 視覚障害教育・聴覚障害教育・病弱教育等重複障害児童の教育課程編成 7. 障害と発達の基礎概念、障害者の自立、発達と教育の関係 8. 障害と発達の基礎概念、いじめや非行、不登校と障害の関連 9. ディスレクシア・ADHD・ASD の教育的支援 10. 弱視・難聴の児童への教育的支援及びろう文化と手話 11. スクーリング修了試験			
[使用テキスト・参考文献]	玉村公二彦、他「新版 キーワードブック特別支援教育」クリエイツかもがわ 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 (文部科学省) 小学校学習指導要領 (文部科学省)		
[単位認定の方法及び基準]	授業態度、積極性：総合の 30% 試験：70% 総合点：100 点		

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 発達心理学 I		授業の種類 (☒ 講義) ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 海津 庄平	実務経験	精神科の病院に 10 年ほど勤務し、心理士として主に外来・入院患者に対するカウンセリングや心理検査の実施などを行った	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 20 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 発達概念の今日までの変化やライフステージについて学び、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援の在り方について理解する [授業全体の内容の概要] 発達の過程において、心身の発達がどのように行われるのかということや、発達を規定する要因などについての知識を学ぶ [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・生涯発達の理論について理解し、各ライフステージの特徴について説明できる ・現在の発達概念や、子どもの認知・言語・感情面での発達の過程について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 胎児期・乳幼児期の発達のな特徴 2. 児童期・思春期の発達のな特徴 3. 「発達」の今日的意味について 4. 発達を規定する要因について 5. 各ライフステージの特徴とエリクソンの心理的危機について 6. 身体・運動の発達について 7. 認知・言語・感情の発達について 8. 子どもの発達における今日的課題について			
[使用テキスト・参考文献]		授業時に配布する資料を用いる	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による。	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育・教職実践演習		授業の種類 (☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 長谷川 智子		実務経験 私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 20時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☒ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] これまでの専門的な科目履修や実習等を通して習得してきた知識・技能を点検・確認し、不足している部分を向上するとともに、教育や保育の現場で働く知識や技術を身に付けていくことを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 保育実践上の課題や子どもや子育てに関わる環境上の諸問題について、主体的に調べ考察しながら地域との連携について理解していく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 保育者としての資質について理解し、自分自身の実践力を理解するとともに、改善・向上に向けた取り組みができる。 ・ 地域との連携を考えた保育実践について理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 現代社会における子どもの育ちについて 2. 子どもの育ちと社会環境の影響について 3. 日本における少子化現象と保育上の課題について 4. 現代の保護者の子育て意識と保育施設や保育者の役割について 5. 都市化現象が子どもの生活と発達に及ぼす影響について 6. 保護者支援の方法について 7. 子どもの遊びを豊かにする環境構成について 8. 保育における地域との連携について			
[使用テキスト・参考文献]		保育・教職実践演習(大学図書出版)	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による。	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育者・教師論		授業の種類 (☒ 講義) ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 松本 貴子	実務経験	私立保育園にて、0～5 歳児の保育、子育て支援事業、実習生指導及び主任業務、また、公立小学校において特別支援教育指導員として従事した。	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 20 時間 (単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 現代社会における保育職・教職の意義を踏まえ、保育者・教員の役割と倫理を理解する。 [授業全体の内容の概要] 資格・要件、信用失墜行為及び秘密保持義務等を学び、制度的位置づけを理解する。また、保育者・教員の資質や能力、専門性を理解し、計画に基づく実践、省察・評価による保育の質の向上について理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 他の分野の専門性と異なる特性がある保育者の専門性について理解する。社会変化や子どもの発達的变化などに伴う保育ニーズに対応するための専門性向上の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 他の専門性と異なる保育者の専門性の特性について。 2. 社会的変化や子どもの発達的变化に伴う保育ニーズの対応、及び専門性向上の方法について。 3. 現代社会において求められる保育者増について。 4. 保育士資格、幼稚園教諭の制度上の定義、職務上の役割や内容について。 5. 保育者の倫理とは、どのような内容を含むか 6. ルソー、オーウェン、フレーベル、倉橋惣三、野口幽香、赤沢鍾美の中から興味のある 1 名を選択し、業績、思想について調べる。 7. 子どもの豊かな生活のための保育者のあり方や子どもへの配慮について 8. 保育における省察の重要性について			
[使用テキスト・参考文献]		民秋言編「保育者論」 建帛社 文部科学省 「幼稚園教育要領」 文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育内容（環境）		授業の種類（ ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ）	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において 0～5歳児の保育に従事した。また、主任業務、 担任業務、実習生指導を行った。	
授業の回数 11回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ ☐ 必修 ☐ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容を踏まえ、実践や事例を通して、身近な環境の特性を明らかにすると共に、学生自身が身近な環境に好奇心や探究心を持ち、幼児の生活と結びついた保育の展開を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] 幼児が成長していく過程において、生活の中で出会うすべての物が大切な環境である。保育者はその環境が幼児の成長を促すものとするために、抽象的な知識を教えるのではなく具体的な直接体験として、身近な環境を通して、主体的に行動できる力を育てていく保育とはどのような保育であるかを考えていく。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 日常生活の様々な場面で、幼児が関わる人的環境、物的環境、自然環境について演習を交えながら学習する。そこから幼児が身近な環境に興味・関心を持って関わる力を育てるにはどうしたら良いかを、各自で解答を導き出す。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育内容を構成する環境について ※保育内容「環境」において子どもの育てたい方向を明示しながらまとめる 2. 「積極的に関わる」「生活に取り入れる」などの活動への援助について ※保育者の専門性を明確にし、子どもが遊びを生活に取り入れていく過程を示す。 3. 子どもにとって自然と関わることの意義について ※自然環境の意味を踏まえながら、身近な自然との関わりを通して、子どもの内面に子どもの内面に育って欲しい事柄をまとめる 4. 保育における環境構成とは ※子どもの環境への積極的な働きかけを重視し、好奇心・探究心を刺激するような内容や方法をまとめる 5. 子どもを取り巻く身近な環境について理解する ※子どもにとっての「身近な環境」を整理したうえで、子ども特有の学び方を示す 6. 乳幼児の安全な環境について ※安全教育の基本を示しながら、生活安全・交通安全等の視点から捉えてまとめる 7. 人的・物的環境としての関わりについて ※子どもを支える人的環境・幼稚園・保育園の室内装飾について（演習） 8. 飼育動物・栽培植物との関わりと保育 ※飼育方法や栽培方法についてまた、問題点について 9. 自然・地域社会との関わりと保育 ※豊かな自然体験、行事と子どもの関わりについて 10. 環境に力強くかかわる子どもを育てる ※人的環境としての保育者の役割について 11. 試験			

[使用テキスト・参考文献]	新・保育内容シリーズ環境（一芸社）
[単位認定の方法及び基準]	試験：総合の 50％ 授業中の態度、積極性：総合の 50％ 総合：100 点

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育内容（健康）		授業の種類（ ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ）	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において 0～5歳児の保育に従事した。また、担任業務、主任業務、実習生の指導を行った。	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ ☐ 必修 ☐ 選択 ）
〔授業の目的・ねらい〕 保育内容を構成する健康について、乳幼児の健康に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活について理解すると共に、保育全体構造における健康に関して総合的に指導・援助が行えるよう理論や知識を習得する。 〔授業全体の内容の概要〕 子どもの健康を促進する側に立ったとき、「子どもの生活と健康」に関する現状把握とそれによる課題の特定は重要である。こどもの生活と健康に関する理解を深め、それらの結びつきから健康の実現を促す諸要因の働きについて学んでいく。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 幼児が保育所での日常生活において、健康で楽しい生活を送るためには、保育者はどのような配慮が必要かを保育者の安全教育、基本的生活習慣の確立、集団生活における保育者の役割や位置付けについて、また、発達年齢の特徴を入れながら幼児の体・言葉・心の発達理解ができる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数			
1. 保育内容「健康」の意義について ※幼稚園、保育所における領域「健康」のねらいと内容について 2. 幼児期における遊びと健康の関係について ※運動遊びと発育・発達との関係性、身体に及ぼす効果、代表的な遊びについて 3. 運動遊びの実践演習 幼児の安全教育について 4. ※事故、ケガの発生状況の把握、安全教育の必要性、安全管理の重要性をしっかりと説明できる事 幼児期の基本的生活習慣における保育者の役割について 5. ※保育者としての位置づけ、基本姿勢を意識したうえで、具体的な生活習慣形成のための役割について 6. 幼児の生活と遊びについて ※生活リズム、生活習慣と運動遊びを一体として捉えた幼児の生活を意識する 運動遊びの重要性、近年の子どもが抱える運動量不足の問題や課題についても理解する 7. 幼児の心身の健康と発達について 幼児期の身体の発達、運動機能の発達、精神発達特性、心とからだの関係などを理解する事 8. 家庭における基本的生活習慣の形成。食事の習慣と自立（食欲を育てる・味覚を育てる・コミュニケーションとしての食事・朝食の欠食について）睡眠・排泄・清潔・着脱の習慣化・家庭との連携 9. 安全教育と子どもの安全能力・病気の予防、衛生・自立心の育成と主体的な活動 10. 領域「健康」の指導案と実践演習 11. 試験			

[使用テキスト・参考文献]	保育内容「健康」(大学図書出版)
[単位認定の方法及び基準]	試験：総合の 50% 授業中の態度、積極性：総合の 50% 総合点：100 点

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育内容（言葉）		授業の種類（ ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ）	
授業担当者 長谷川 智子	実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 11回	時間数（単位数） 20時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ ☒ 必修 ☐ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] 幼児が豊かな言葉や表現を身に付けるために、保育者として実践的な理解の習得や主体的な態度を養うことを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」のねらいと内容を理解できる。 ・ 乳幼児期の言語的発達を理解し、人的環境として保育者自身が言葉を豊かにするための実践について基礎的な知識を身に付けることができる。 ・ 乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を習得し実施できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育内容（言葉）の観点について 2. 乳幼児の生活と言葉の環境 3. 乳幼児の言葉の発達と習得の特徴 4. 言葉の発達を支援する保育者の言葉 5. 言葉と児童文化財 6. 言葉と児童文化財 7. 言葉と児童文化財 8. 言葉遊び（伝承遊び） 9. 言葉から国語教育へ（児童期へのつながり） 10. 言葉に関する問題と保育者の役割 11. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		保育を目指す人の保育内容「言葉」（みらい）	

[単位認定の方法及び基準]	授業態度、積極性：総合の 30% 試験：70% 総合点：100 点
---------------	---

授 業 概 要

(幼稚園専攻科)

授業科目名 保育内容（人間関係）		授業の種類（ ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 鵜川 真裕美	実務経験	私立幼稚園、公立保育所において0～5歳児の保育、保護者支援。公立小学校にて特別支援教育指導員などに従事した。	
授業の回数 8回	時間数（単位数） 20時間（単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ ☒ 必修 ・ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] 保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 地域社会の都市化が子どもの人間関係にどのような影響を及ぼしているかを捉える。 2. 地域社会の都市化で相互補完的関係にある幼稚園の役割を述べる。 3. 社会的存在としての人間・子どもの意味と、そのために求められる資質・能力について考える。 4. 群れから集団が形成される過程で、保護者が留意する点について理解する。 5. ねらいと内容の意味を正確に捉えて、そこで重視されている点についてまとめる。 6. 自己表現、自己抑制、他者受容、葛藤体験の意味を捉えて、その際に言葉が果たす役割について考察する。 7. 子どもの人とかかわる力を育成する際の保育者の指導・援助の留意点について考える。 8. 自治的集団の意味を捉えて、望ましいグループ活動の内容についてまとめる。			
[使用テキスト・参考文献]	子どもと人間関係 萌文書林		
[単位認定の方法及び基準]	レポート評価による。		

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育内容（表現）		授業の種類（ ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ）	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4、5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 8 回	時間数（単位数） 20 時間（単位）	配当学年・時期 1 年・前期	（ ☒ 必修 ☐ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] ・乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力などを身につける。 [授業全体の内容の概要] ・乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育士は、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意思のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれに大切に受け止めるための理解力を培っていく。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・保育内容の 5 つの領域は、保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的にとらえる視点を持つようにし、保育を進めていくことができるように学ぶ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 表現を育てる保育者の役割について(領域「表現」のこれまでとこれからをまとめる) 2. 表現を育てる保育者の役割について(現代社会で必要となる保育者の具体的な役割や指導方法について自分なりにまとめる) 3. 日常生活のなかの私たちの表現について 4. 領域「表現」の意味について 5. 乳幼児の「表現」と発達について 6. 表現を育てる保育者の役割について 7. 領域「表現」のこれまでとこれからについて 8. 保育者自身の感性を磨くためにはどうしたらよいか			

[使用テキスト・参考文献]	最新保育講座 11 保育内容「表現」 ミネルヴァ書房
[単位認定の方法及び基準]	レポート評価による。

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 保育内容総論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において 0～5歳児の保育に従事した。また、担任業務、主 任業務、実習生の指導を行った。	
授業の回数 11 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育内容の 5 つの領域 (保育所は「養護」的内容が加わる) は保育実践では分断されるものではない。具体的な生活や遊びを通した総合的な保育を展開させることである。実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 保育内容とは、幼稚園・保育園・認定こども園などにおける保育の目的を達成するために展開される保育の営み全てであり、相互に関連し、総合的に指導・展開されるものであることを、テキストや具体的な保育の実践事例を基に学んでいく。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 学生自らの主体的態度を育み、保育者として保育の多様な展開について必要な保育実践力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育内容を捉える視点「領域」について ※保育内容とは何か確認する 2. 生活と遊びの関係について ※子どもの生活は遊びである。あそびながら学ぶものは何かを学ぶ。 3. 保育ニーズへの対応について ※保育が必要な理由を学修する 4. 道徳性の芽生えについての指導について ※道徳性とは何かを先ず学修しなぜ必要かを学ぶ 5. 情報化社会と保育内容の展開と工夫について ※情報社会と保育内容の相互関係について学ぶ 6. 保育の中で子どもの発達を捉える際に留意点について ※子どもの発達について確認し学修する 7. 未満児 (0・1・2 歳児) の保育展開 8. 以上児 (3・4・5 歳児) の保育展開 9. 保育方法と保育内容 子どもの育ちをどのように見るか 10. 学校教育の基本としての保育 現代社会と生きる力の基礎 11. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		実践理解のための保育内容総論 (大学図書出版)	
[単位認定の方法及び基準]		試験：総合の 50% 授業中の態度、積極性：総合の 50% 総合点：100 点	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 幼児教育方法論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 長谷川 智子	実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 20時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学び、実際の保育の場で必要とされる環境構成や幼児一人一人の理解の方法を身に付けることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている「ねらい」や「内容」を学び、基本的な知識や内容、指導の在り方を理解する。また、基本的内容の理解を深めるため、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 幼稚園教育要領や保育所保育指針に述べられている保育者の役割がわかる。 ・ 幼児期には幼児の主体性を育むために必要な幼児理解がわかる。 ・ 日々の保育における記録の意味や省察・評価の意義がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 幼児とともに生活をつくる保育者の役割について 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針に述べられている保育者の役割について 3. 幼児期にふさわしい教育の方法について 4. 幼児の主体性を育む保育について 5. 遊びの中の学びを育むための援助について 6. 保育方法としての保育形態について 7. 保育の評価について 8. 家庭、地域社会や小学校との連携が生かされる保育について			
[使用テキスト・参考文献]		幼児教育の方法(北大路書房)	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による。	

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 幼児体育		授業の種類 (☒ 講義) ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 大塚 三聖	実務経験	県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。	
授業の回数 11 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 子ども達の運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみに頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るようなしぐさを身につけることを理解し、身体運動に関する基本的な知識の理解を深める。また、安全管理や安全教育に必要な知識を学習する。 [授業全体の内容の概要] 身体運動に必要な基本的な知識の理解や安全管理や安全教育に必要な知識を深めるとともに、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び等に関する教材研究を行う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育者自身が視覚教材となれるようなしぐさや動作を理解する。 ・ 身体運動に関する基本的な知識、幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を理解する。 ・ 運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 幼児体育の必要性、スキヤモンの発育曲線、幼児期から児童期のあそびとその効果 2. 幼児期の運動遊び、安全管理や緊急時の対応について 3. 伝承遊びとその効果、縄遊びとその効果と注意点 4. 伝承遊び、縄跳び 5. 鉄棒・跳び箱・マット遊びの効果と注意点など 6. 鉄棒・跳び箱、マット遊びの補助など 7. リズム運動の効果について 8. 創作リズム体操① 9. 創作リズム体操②			

10. 創作リズム体操発表	
11. 試験	
[使用テキスト・参考文献]	井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社
[単位認定の方法及び基準]	試験：総合の 50% 授業中の態度、積極性：総合の 50% 総合点：100 点

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業科目名 幼児理解		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 長谷川 智子	実務経験	私立保育園にて0～5歳児の保育、子育て支援事業、学童保育、実習生指導に従事した。	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 20時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 幼稚園、保育所・認定こども園がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 幼稚園教育要領等の指針や保育所保育指針を基準として各園において編成される・全体的な計画・教育課程等について、その意義や編成の方法を理解できる。 ・ 各園の実情に合わせて創意工夫し、園と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子どもの発達連続性及び保育者間の共通認識とは 2. 地域や家庭との連携、小・中学校との連携とは 3. 保育における計画について 4. 幼児期の遊びと学びについて 5. 教育課程の実施と指導計画の作成について 6. 指導計画作成の実際について 7. 保育における評価について 8. 教育課程、保育課程の課題と展望について			
[使用テキスト・参考文献]		教育課程論(光生館)	
[単位認定の方法及び基準]		レポート評価による。	